

世界各地の大使館、領事館、
ジャパンファウンデーション海外事務所から、
びっくり仰天のハプニング、
ご当地自慢、日々の生活で目にするヘンなニッポンなどなど、
自分ひとりの胸にはとてもしまっておけない
楽しいエピソードをご報告します。

をちこち watch

Vol. 01

若者たちは 「Matsuri dance」 で腰ふり、ノリノリ

サンパウロ日本文化センター
山下剛毅

今、巷で話題のユニークな変形形
日本文化といえば「Matsuri
dance」(祭りダンス)！

盆踊りの振りつけにストリートダンス
などの動きを加えた、アップテンポな
「盆踊り風ダンス」は、ブラジル南部にあ
るパラナ州北部のマリンガやロンドリー
ナの日系三世によって生み出された。い
かにもブラジルらしく、ついていけない



ナイスなヒップで踊る左の3人。
見事な腰ふりに、手は盆踊り風

ご年配の方々は尻目に、若者たちは腰ふ
り、ノリノリ。ブラジル各地で広がりを
見せているらしいが、その余波はいつか
日本に届くだろうか。

BRAZIL

ソウル日本文化センター
趙永祐

低予算ドキュメンタリーが 歴史的な大ヒット！

KOREA

2009年初めの韓国映画界
は、総制作費2億ウォン(約
1500万円)のドキュメンタリー
映画『牛の鈴の音(ウオナンソリ)』
(イ・ユンリョル監督)の話題でも
ちきりだった。1月15日に7つのス
クリーンで封切られてから、3月ま
で280万人の観客を動員し、4月
には71のスクリーンで上映された。
ドキュメンタリー映画は1万人が見
れば大成功と言われているが、それ
をはるかに超える大記録が毎日のよ
うに更新された。

低予算のため、スター出演もなく、
マーケティングもできなかった。そこ
にあるのは、3年間の歳月をかけて
記録した老夫婦と牛の絆だけである。



映画『牛の鈴の音』のチラシ

厳しい環境や足が不自由なものにも
かわらず、黙々と自然に優しい農
業を営む老夫婦と、それを見守りな
がら30年以上働いてきた牛は、パー
トナー以上の深い絆で結ばれ、支え
合う。

「幼年の時代に、私たちのために献
身的に働いてくれたすべての牛とお
父さんたちにこの映画を捧げます」
というクレジットからもわかるよう
に、老夫婦は自身の将来を顧みず、
ただ一生懸命に働く。その献身的な
姿が世代を越えた共感を呼び、懐か
しい思い出として観客の心を打った
のではないだろうか。

日本にも、島で一生懸命に生きて
いく家族の姿を描いた新藤兼人監督
の『裸の島』という作品があるが、
目まぐるしく変わる世の中で黙々と
自身の役割を果たす姿は、普通の人
にはできない「普通の仕事」だから
こそ、日韓それぞれの人々の胸を熱
くするのかもしれない。

準備に1年かけて 工夫を凝らすシカゴ式 ウェディング

在シカゴ総領事館
免田征子

ア

アメリカの結婚式というと、何を思い浮かべるだろう。教会で式を挙げたウェディングドレス姿のジューンブライド、ライスシャワー、レストランや緑溢れる庭でのパーティー……。

シカゴの季節がもつともよい初夏から夏にかけて、街を歩くと確かにこのような光景に出会う。日本と比べて手づくり感があつてはのぼのとしたイメージがあるが、多くのカップルは1年かけて結婚式の準備をする。

たくさん発行される結婚情報誌を買い求めている。結婚式場を巡って場所を決め、ウェディングドレスを購入し、食事や花を手配し、さらにケーキを注文して、と結婚式の準備は一大行事なのである。

巷で「オークパークの〇〇はすて

USA



クラウドゲート（通称「豆」）は新婚カップルに人気

きだけと高い」「〇〇公園は手ごろだし、環境がすてきだけれど、雨が降ると台なしだし、サービスはよくない」等の情報が飛び交う。加えて、ご祝儀はないものだからテーブルクロス1枚ずつにも単価が加算されていく合計額は、かなりのものになる。

日本の結婚式ビジネスもあの手この手で「一生に一度のイベントをプロデュース」しているが、シカゴでも結婚式ビジネスは多種多様である。シカゴを代表する「豆」の前でプロに記念撮影をしてもらったり、レトロな「アンタツチャブル」風バスに親族一同乗り込んで市内を走ったり、動物園を貸し切ったという話も。皆数々の工夫を凝らして演出しているのである。

パ

キスタンは大変親日的な国だ。その理由の一つは高品質の日本製品にある。つまりパキスタンの人は日本製品に全幅の信頼を置いているのだ。

だから、パキスタンで見かける車はほとんどが日本製で、中古車もたくさん輸入されて走っている。おもしろいことに車体には「〇〇自動車教習所」とか「××農業共同組合」とか「〇〇幼稚園」といった「前世」で活躍していた姿がそのまま残されており、日本のどこで使われていたか一目瞭然である。

突然角を回って現れた車に、自分の日本の住所に近い「長生村××」など

と書かれた文字を見ると、自分が今イスラマバードにいることを一瞬忘れてしまう。それでなくとも地名を含んだ日本語を表示した車がひっきりなしに走っている。

なぜ車体に恥ずかしげもなく日本語を残すのかと思いきや、それには訳があった。たとえ中古車でもれっきとした日本製であるということを誇りにしているためだという。つまり、日本で使われ日本から輸入された中古車は、現地で生産された日本メーカーの新車よりも信頼性があるという。現地で生産された日本車は、買った翌日に故障するという不満を何度も聞いたことがある。

極めつけは南部のシンド州の田舎町バハワルプールに旅行したときだった。国営ホテルに泊まって翌朝、駐車場を見て目を疑った。何と「JAPAN FOUNDATION」とそのロゴが入ったミニバスが止まっているではないか。聞いてみると、それは旅行会社のチ



「野本組」の文字がついたままの路線バス。降車するのはもちろん乗客

ャーターバスで、昨日カラチからモヘンジョダロの遺跡を巡り、これからラホール、イスラマバードまで観光客を乗せて旅するのだそう。私は一瞬、自分のお迎えが来たのかと錯覚してしまい、それから気を取り直して、よくぞパキスタンくんだりまで来たもんだと褒めてやりたい気持ちになってしまった。

びっくりロゴをつけた
ミニバスが
パキスタンを駆けめぐる

在パキスタン大使館 深沢陽

PAKISTAN



ドラマ『山城棒棒軍』 から12年。重慶の街 は変わった？

CHINA

在重慶総領事館 野田昭彦

「山城」の別名をもち起伏の激しい重慶の街には、天秤棒一本で重たい荷物を運んでくれる労働者の群れがいる。彼らは文字通り棒棒（ハンバン）と呼ばれている。

この重慶特有の庶民の姿を、全編重慶方言で人情味豊かに描き、全国的にヒットしたのが、重慶テレビ制作のドラマ『山城棒棒軍』だ。撮影に先立ち、役者たちは実際に棒棒に扮して街中で10日間作業をしたが、俳優だと見破られることがなかったという話や、あるホテルでのロケでは、主演俳優が本物の棒棒に間違えられ、ホテルへの入場を断られたという逸話が残っている。97年の作品である。

97年といえば、重慶が北京、上海、天津に続く4番目の、そして内陸で唯一の政府直轄市になった年である。それから12年、重慶市の変貌は多くの人々が認めるところであり、一部にはいつまでも街全体のイメージを棒棒に代表されるのは心外だ、というような声も聞かれる。しかし、富裕層が現れる一方で、街中にはいまだに多くの棒棒たちの姿を見かけるのも事

人気のジャパニーズ・ レストラン、名前は 「太った少年」!?

PHILIPPINES

マニラ日本文化センター
三富章恵

キャラクターはさほど太っていないが……



フィリピンでも日本食は人気。特に、値段も手ごろなフィリピン資本のカジュアル・ジャパニーズ・レストランは、若者を中心とした客で常時賑わっている。そんなレストランチェーンの中でも老舗と言われているのが、「TERIYAKI BOY 太った少年」。奇抜なネーミングに興味をそそられつつも、メタボを恐れる日本人としては、店名よろしく高カロリーのメニュー

ばかりなのではないかと勘繰って、敬遠してしまいそうである。さて、この一風変わった名前の由来とは？ 創業者であるブライアン・チュー氏に聞いてみた。

すでに決まっていた「TERIYAKI BOY」という英語の店名に、より日本色を出すために、響きがよく覚えやすい5文字の日本語を加えることにしたところ、店のマスコットキャラクタ

ーをデザインした日系カナダ人デザイナーによって「太った少年」と命名された、と意外にもあっさりとした回答。何でも、漢字とひらがなの組み合わせが、より日本的でクールであるといった理由もあるらしい。

意外なところにクール・ジャパンを発掘する外国人の目の付けどころは、ときに日本人では理解しがたいこともあることを実感する。

パリ日本文化会館
早瀬智則

FRANCE

安らぎの旅には 新幹線TGVの 禅ゾーン!?

フランス版新幹線TGVには、iDzenという車両が設けられています。これは、禅のように静かに、携帯電話の電源も切った過ごすこととされているゾーンです。

「Zen」は、このほかにも「安心」「安らぎ」といった意味で、昨今フランス語で頻用されています。安らぎのインテリアを扱う店は「Zen Avenue」、リラックスと瞑想のための音楽を流すのは「Radio Zen」、寝そべてこぐ自転車は「Cycle Zen」といった具合です。「癒し系」とも通じるところがあるかもしれません。

フランス人は一般に議論が大好きで、相手の言をささげるような激しい応酬もしばしば。精神安定剤の消費量が世界一とかいうだけに、禅の境地への憧れも人一倍ということでしょうか。

自分がない（と思っているもの）に価値を認めるのは人の常。最近日本あ「自分らし

さ」がいわれるのと同じ、といったら、うがち過ぎ?



静けさへようこそ。
「iDzen」のポスター

相棒とともに休む棒棒（左）、働く棒棒（右）



実である。
2008年10月、このドラマで親分格の棒棒を演じた俳優が亡くなった際には、葬儀の場に多くの棒棒たちが駆けつけたという。彼らは「親分」との別れに何を伝えたいのだろう。

オ

ーストラリアでは、春から秋にかけて、街のいたるところで結婚式が行なわれているのを見かけます。もちろん、教会での結婚式もありますが、公園などで式を執り行ない、そのままガーデン・パーティーを行なったりするケースも多いので、特に天気の良い夏などとは毎週末、新郎・新婦を見かけるといふ状況になっています。

で、結婚式を迎える新郎・新婦には、その前に、バックス・ナイトやヘンズ・ナイトといって、独身最後の夜を、男の子だけ（バックス・

ナイト、女の子だけ（ヘンズ・ナイト）でハメをはすし、バカ騒ぎするパーティーがあります。主役には当日まで内緒。いろいろと趣向を凝らしたパーティーが行なわれます。私が参加したヘンズ・ナイトでは、テーマに合わせて皆が仮装したり、花嫁さんがボール・ダンスを踊ったり、あと、男性のヌードダンス（主役に内緒です）がサプライズで登場したり!? いずれにせよ、アルコールの消費量はかなりのもので、主役はもちろん、参加者も無事に帰りつくのは大変かも……。

シドニー日本文化センター
長谷川雅代

独身最後の夜の
バカ騒ぎ
パーティー

AUSTRALIA